

2023年度 第2回 町田・安心して暮らせるまちづくりプロジェクト推進協議会
議 事 録

1. 開催日時 : 2023年10月19日(木) 19:00~20:22
2. 開催場所 : 町田市医師会館
3. 出席委員 : 川村益彦、五十子桂祐、土屋孝治、井上俊、岡元信太郎、
西原佳子、齋藤秀和、大島泰嗣、藤原幸雄、遠藤圭(代理)、松岡亮二、
迫田優、柏木真吾、長村将宗、永見直明、高橋良彰、山田剛寛、田川尚寛、
長谷川昌之、齋藤美和子、早出満明、江藤利克
計 21名(敬称略)
4. 欠席委員 : 岡部幸子
5. 市側出席者 : 高齢者支援課 皆川麻美、斉藤幸一、山田冬射、大歳悠輔、鈴木琴音
松村いづみ、天野樹
(敬称略)
6. 医師会出席者 : 事務局 金澤伶 (敬称略)
7. その他報告者 : 南第2高齢者支援センター 岡根浩太郎 (敬称略)
8. 傍聴者 : 45端末
9. 記録 : 町田市介護人材開発センター 石原正義、宮本千恵、岩崎一郎

《資料》

- 資料1 第20回多職種連携研修会開催結果について
資料2 救急医療情報キット部会の検討状況について
資料3 「お家でできるトレーニング(家トレ)」の状況報告について
資料3別冊 お家でできるトレーニング(家トレ) 冊子
資料4 町田市患者や利用者等からのハラスメント相談窓口事業の研修会実施について
- 資料5-1 鶴川圏域①地域ケア推進会議報告書
資料5-2 鶴川圏域②地域ケア推進会議報告書
資料5-3 鶴川圏域③地域ケア推進会議報告書
資料5-4 鶴川圏域④地域ケア推進会議報告書
資料5-5 忠生圏域①地域ケア推進会議報告書
資料5-6 忠生圏域②地域ケア推進会議報告書
資料5-7 忠生圏域③地域ケア推進会議報告書
資料5-8 忠生第2地域ケア推進会議報告書
資料5-9 町田圏域①地域ケア推進会議報告書
資料5-10 町田圏域②地域ケア推進会議報告書
資料5-11 町田第2地域ケア推進会議報告書
資料5-12 堺第2地域ケア推進会議報告書
資料6 第21回、第22回多職種連携研修会について

《開 会》

1 開会挨拶

【川村会長】 皆様、こんばんは。また今回も、集まっていただきご苦労様です。コロナもひと段落はしているが、インフルエンザも流行っているし、コロナも下火になっているわけではないので、相変わらず、皆さん、感染対策に気を使って大変だと思うが身体に気を付けて頑張してほしい。今日もよろしくお願いいたします。

2 報告事項

(1) 第20回多職種連携研修会開催結果について【資料1】

【研修部会・岡根部会長】 岡根部会長より資料1に沿って説明された。

(2) 救急医療情報キット部会の検討状況について【資料2】

【救急医療情報キット部会・井上部会長】 井上部会長より資料2に沿って報告された。

【川村会長】 DNARのことだが、救急病院のほうはどうか。

【五十子委員】 救急病院として受けている側とするとDNARの記載はやめたほうがいいと思っている。

蘇生しないのがどれを意味しているのかわからないので、酸素投与をするのかしないのか、人工呼吸器をつけないとか、気管内挿管はしないとか、心臓マッサージはしないとか、そういうふうにしたほうがいいのか。東京消防庁の方々は法律上決まっていることなので、主治医の判断がない限りは書いてあってもやらなければならない。主治医の先生がわかるようにしておくことと、細かいところまでやっていくと救急病院としては有難い。略語をやめたほうがいいと思う。

【井上部会長】 前回のご議論のなかでDNARはやめたほうがいいんじゃないかと、ご意見があったかと思うので、今回は再討議してDNARについては入れないということにした。見つけた人が焦って救急要請をした場合、救急隊が入って蘇生を開始してしまっということになるので、今回、DNARは入れないということになった。

【五十子委員】 細かい項目も何もなく入れないということか。

【井上部会長】 今回は入れずにかかりつけ医に救急隊が確認するのが紛らわしくないのではないかと、という議論になった。

【五十子委員】 夜間は確認できないと思うがやるという想定なのか、どうか。

【井上部会長】 通報があれば救急隊はやらざるを得ないと思うので、家族と連絡が取れば何か判断があるんだと思うが、基本的には蘇生を開始するという事だと思う。

【川村会長】 実際の場合で一番わかりやすいのはがんの末期の方とか、そういう方だと皆のコンセンサスがあって入っても何もしないというのはいいのだが、今まで元気だった人が倒れたときは一番困るし、それはDNARにはならない。がんの人に訪問してずっと診ているときはいいのだが。家族にしっかり言っておけば基本的に呼ばないわけで、呼ばれると救急隊はやらざるを得ない。なかなか難しい。やはりないほうがいいのか。

(3) 「お家でできるトレーニング(家トレ)」の状況報告について【資料3】

【高齢者支援課・健康づくり担当 松村氏】 松村氏によって資料3に沿って報告された。

【迫田委員】 冊子を見たが図解があってわかりやすく、グループホームのレクリエーションに入れてもいいと思った。実際にグループホームでこうしたレクリエーションをするときにはスタッフがやって見せて、真似してもらう形になるが、全員認知症の方なので。実際にこうした家トレが必要な人は認知症の方も対象だと思うが、絵と文字だけだと理解ができない方が多くて、そういう方はNHKのテレビ体操のようにテレビで流れていてそれを見て行うことができる。ここに書いてある家トレの内容をYouTubeで公開する予定はあるか。

【早出委員】 わかりやすい方法でお知らせすることを考えていく必要があると思う。まずは冊子の周知を図り、今のご意見も含めて今後さらに知っていただくための対応を検討したうえで、これは町プロの取り組みとして挙げさせていただいているものなので、変更する場合はこちらにお諮りしたうえでより良い形にしていきたい。

【迫田委員】 利用者のキーパーソンも高齢の方で元々、老老介護をしていて施設に入った方は結構いるので家族もこれを見たら喜ばれると思うので、施設としてもこの冊子を紹介したいと考えている。

【永見委員】 会員それぞれに5冊ずつということだが、前回の会議のときに薬局では配布物として置きやすいということが言われていたと思うので、今回は全部のところ5冊ずつ平等にということだが、置きやすいところには今後どういう展開を考えているか。

【早出委員】今回はこういう形で会員に5部ずつ配布させていただいた。なくなってしまったなど配布の状況も連絡をいただいて状況を把握したうえで、今後作成するときの配布の方法を考えていきたいと思う。今回7,500部作成したが、足りない場合には、冊子データをダウンロードできるので、このデータを活用して周知していただきたい。

【五十子委員】冊子の1ページ目の5行目というか3行目の少しずつの「づ」は「ず」ではないか。

【早出委員】ご指摘ありがとうございます。ホームページでも周知しているので、そのデータを修正し、今後、冊子のほうは作成するときに修正する。

(4) 町田市患者や利用者等からのハラスメント相談窓口事業の研修会実施について【資料4】

【高齢者支援課・鈴木氏】鈴木氏より資料4に沿って説明された。

【井上委員】とても興味深いので出席したいが業務の都合で参加できない。オンデマンドやあとで研修内容を見ることができるか。

【高齢者支援課・斉藤担当係長】後日動画の配信を予定している。その際は皆様にご案内したい。

【齋藤議長】会場での定員にまだ余裕はあるか。

【高齢者支援課・斉藤担当係長】10月17日現在で定員50名のところ28名の申し込みがあり、まだ若干余裕がある。是非、参加していただきたい。

【田川委員】ハラスメントの相談が6件あったということだが、どのような解決方法を案内されたのか、相談した方が納得できるような話し合いができたのか。

【高齢者支援課・斉藤担当係長】電話の相談が5件とメールが1件、電話で相談を受けた際に相談窓口側で対応策を教示するといったことが主な対応になっている。具体的に1件程度申し上げる。利用者の家族等から暴言を吐かれた件では、その暴言についての違法性の有無や、今後対応する際に、組織で対応するように、複数人で対応するように、今後、裁判を見据えてこの方が発言する内容や暴言を時系列でメモに残しておいてくださいといったような、裁判を見据えた対応をすることを教示していた。

【松岡委員】相談者の内訳が支援センター5件と医師会1件となっているが、介護事業所等からの連絡がなかった理由は何か考えているか。

【高齢者支援課・斉藤担当係長】なぜ介護事業所から相談が来ないかについて明確な原因は分かっていない。連絡会や団体の総会にも参加してチラシを配ってアナウンスしたが、さらに周知が必要であると思っている。事業所からの相談がないのは課題として認識している。例えば、出張して臨時的な窓口を設けたり、待っているだけではなく、こちら側から伺ってそういった状況を把握したり、積極的な相談の受付を考えている。事業所側から相談しづらい理由があれば教えていただきたい。

【藤原委員】エリアの支援センターには虐待やハラスメントのことやサービスで困ったときに事業所が対応できないときには相談していると思う。

【長谷川委員】藤原さんがおっしゃったとおり、そういう困難ケースやちょっと対応が大変なケースは、ケアマネジャーや支援センターに相談いただくことが多いと思うので、もともと支援センターがかかわっているケースではなくて、支援センターが相談を受けてそこから相談を差し上げたという可能性が高いのかと思っている。概要のほうでも一つの案件に関しては代表者を立てて、そこが相談するという形になっていたの、そういう形での相談になっているのかと思う。アンケートのなかではヘルパーや訪問看護でまずいと思われるハラスメント案件があったので、躊躇なく相談していただいた方がいいのではないか。6件は少ないと思う。支援センターに相談して支援センターがあげる形でもいいが、その方に対応している現場の方から直接上げていただくのがいいのではないかなと思う。

(5) 地域ケア推進会議について【資料5】

【長谷川委員】長谷川委員より資料5に沿って報告された。そのうち、5-8、5-11、5-12について追加の説明があった。

この3つの地域推進会議につきましては、8月に行われた町プロ多職種連携研修会及び12月に開催予定の町プロ多職種連携研修会にもつながる部分が非常に多くあるかと考えている。岡根研修部会

長の8月の研修会の報告にあったように「備え」について、5-8は忠生第2高齢者支援センター主催で開催されたもので、入院の時にスムーズに病院と本人、家族、支援者が連携できるように市民向けに周知している。これには町田市医師会の医療機関の方にもご協力をいただいている。5-11は町田第2高齢者支援センター主催のもので、地域住民に人生会議とACPについて知っていただくという形での開催になっている。今後12月に開催の町プロでも予定しているがテーマとしてACPや人生会議などを取り扱うと聞いており、こちらについても非常に近いものとなっている。この町田第2高齢者支援センター開催のものについては、専門職がよりACPや人生会議について、積極的に普及啓発を行っていくことが必要ではないかというところで提案をいただいている。こちらの会議についても町田市医師会の医療機関の方にご参加いただいている。5-12は堺第2高齢者支援センター主催のもので、お一人様をキーワードにし、いわゆるキーパーソンとなり得る方が不在でも本人が望まれる場所で生活を行うにあたり、地域で何が必要か検討している。専門職が様々な制度や考え方を知ること为目标とし、今回は後見制度について、今回の6月のものはACPや人生会議を知っていただくことに取り組みされている。今回報告したものや各圏域、センターで行われているもののなかで、町プロ協議会で全市的な取り組みにつながっているものを中心に報告した。前年度全市的に取り組んだフレイルも各圏域や各センターであげられた推進会議の内容を協議し、町プロでの取り組みにもなっている。逆に町プロで取り組んだものを地域でより伝えたい、地域の住民にさらにしっかりと、理解していただきたいというところで継続的に取り組まれているという効果も生まれている。今回各圏域で行われたACPや人生会議についても町プロで全市的な取り組みになるとともに、そこからさらに各圏域、各地域で取り上げていただけることを期待している。

【五十子委員】 地域ケア推進会議にいつも医師会の会員の先生になかなか参加していただけて申し訳ないが、支援センターの方で決まった先生だけですね、出ているのは。一本釣りに決まった先生だけが出ているのかと思うが、何か工夫されているか。いろいろな先生に出てもらうために。

【長谷川委員】 鶴川、町田、忠生圏域では、企画会と呼ばれるものになっていて、参加していただいている先生、三師会の先生に固定的に来ていただいている部分はある。各圏域とも拡大会議というもので市全域であったり、圏域全体のところにご参加いただくときは町プロの各地域ケア推進会議のルールに基づいて、各先生の方に三師会の事務局を通じて通知している。合わせて古典的な技ではあるが、訪問させていただいてチラシを先生に渡すこともある。それ以上にご意見やアイデアをいただけたら参考にさせていただきたい。

【五十子委員】 ぱっと思いつくことはないが、いまだに会員の先生からいつこれをやっているのか聞かれることが多いので、よくあるのは事前にメールなどで連絡が来ると思うが、当日の朝にも来て、「今日はこの会議がある日です。」のようなメールが来たり、「開始の1時間前になりました。」とか、しつこく言えば出てくる先生が一人や二人出てくるのではないかと思うが、嫌われる可能性もあるから気を付けて。

【長谷川委員】 もしお邪魔でなければ、当日の朝や1時間前にご連絡させていただきたいというのはあるが、実際に中身のことを見ていただいて会議の参加者を増やしたいので、いただいた内容をもとに工夫していきたい。ありがとうございます。

【五十子委員】 電話は診察中のこともあるが、メールは関係ないと思っている先生は勝手に削除すると思うし、ただ行こうかと思っている先生は思い出してくれると思うので、事前にそうさせていただきますと連絡しておけばメールだったら許してくれないか。

【長谷川委員】 自動的にリマインドで送られたということにさせていただければと思う。

3 協議事項

(1) 第21回、第22回多職種連携研修会について【資料6】

【研修部会・岡根部会長】 研修部会・岡根部会長から資料10に沿って報告された。

第21回多職種連携研修会について、事前の認識度、理解度をある程度われわれが把握したうえで研修会に臨む形を考え、事前アンケートを取らせていただきたいので、参加する、しないに限らず多くの方に回答していただくことによって今の町田市内のわれわれ専門職がどれぐらいの段階にあるのか

をまず見てから始めて行ければと思っている。ご協力よろしく申し上げます。第22回多職種連携研修会について、昨年度の研修のときにはいろいろな方のご協力をいただき、80名くらいの運営側のメンバーで実施した。今回も各団体からの協力をいただきたい。

【迫田委員】 前回の研修会に参加できなかったが12月の研修会にはぜひ参加したい。前回の研修を踏まえての連続性のあるもののような気がしていて、前回参加していない私でもついていける内容か。

【研修部会・岡根部会長】 専門職それぞれの理解度や解釈には違いがあるため、基礎からしっかり学んでいこうという会になっており、今、講師の先生を決めていく段階にあるが、その先生には基礎から入るようお願いすることになっている。動画視聴で前回研修を見ることができる。一度視聴して参加していただければよいと思う。

【大島委員】 前回の流れを受けて ACP について12月と3月も市民向けもということで、とてもいい流れだと思うが、2回終わったらどうするということになると思うが、かなり浸透させていくには継続性を持ってやっていかなくてはいけないと思う。今回この2回で ACP に触れてまた来年再来年とまた違う内容で研修とか ACP だけに触れていく研修をやっていくわけにはいかないと思うが、研修会以外でも市民の方が ACP という単語だけでも多く目にするような機会や普及月間ではないが、地域ケア推進会議、支援センターの協力を得て、今月は町田市どこを歩いても ACP を目にするような、そのくらいの形で毎年継続性を持ってやっていかないとなかなか浸透が難しいのではないかと感じた。

【研修部会・岡根部会長】 その通りだと思う。1回やって終われるものではないかと思う。町プロ協議会で実施するイベント発信だけですべて賄えるかというところと難しいと思う。今回の研修でまずスタートラインに並ぶ。そこからそれぞれがどんな活動ができるのか、また人生会議の日のようなランドマーク的なタイミングを活用してよりインパクトをもって市民に周知していくにはどうしたらよいのか、そういった話を今回の研修会のグループワークの一つのテーマとし、皆さんの意見をいただいきたい。アイデアのたくさん集まる会議になると良い。よろしく申し上げます。

【長谷川委員】 地域ケア推進会議の報告をしたが、町プロで行ったもの、前年度ではフレイルについて、町田第3高齢者支援センターなどで、さらに地域で、その日実際に会場には来れなかったというところで是非同じような形で開催してほしいという希望があって、町田第3高齢者支援センターでミニ版みたいな形で開催されたことも聞いている。資料5—12の堺圏域では11月30日が厚生労働省がいい看取りの日と定められているので、11月を ACP や人生会議を地域で気軽に話せるような月間にしていこうというような活動も地域としてしていこうという話もあるので、町プロで行われたものがそういう形で地域に戻っていくという形もあるのかと思うし、各連絡会で何かしら研修会を開かれると思うので、ぜひ町プロで行われた研修会について各連絡会で町プロでこんな研修会があったから私たちの専門職連絡会でもこういう研修をやっていこうとお声がけいただければ、各所でご協力できるのではないかと考えている。

【齋藤議長】 事前アンケートに協力をお願いします。それを元に研修部会で内容を深めていくということではよろしいか。3月2日開催分にもご意見をいただきたい。

【永見委員】 別の地域でやるのはいいことだと思った。私は忠生や堺にいる身としてそっちでやる場合に場所はあるのか気になって、地域でやるといいながら市役所や南圏域の体育館だけになってしまうと、今後のことになってしまうが堺地域とかもやれたらいいなと思っている。違う地域でやれるのは非常にいいと思う。先ほどのDNARの略語の話もあったが、ACPも略語で行くと思うが市民に知っていただくときに略語が世の中にすごくあふれていて混乱しないかと思う。町プロで伝えていくときに人生会議でもいいが、日本語として伝えていく取り組みになればいいと思う。皆さんもどう思うかお聞きしたい。

【研修部会・岡根部会長】 いろいろな地域で実施されるのはいいと思う。堺圏域、忠生圏域で、このあたりでやったらという意見もほしい。皆さんそれぞれのフィールドが違うので、知っているだろうと思っても知らなかったりする。是非お寄せいただけたら。ACPなど略語に関してはわかりやすく表現できているようで中身がよくわからない、伝わらないという原因でもあったりするため、研修部会としては人生会議を先にもってきてカッコ ACP と書いているのがこだわりと言えればこだわり。人生会議がわかりにく

ということもあるだろうから、どう伝えていけばいいのか委員の皆様の意見をいただきたい。普段こういうふうにお知らせしているとかそういう話はないか。

【西原委員】 ACPという言葉をも自分でも言えなくて、これを普及させるのは難しいと感じている。人生会議というのも会議というのは人とやるのか自分のなかでやるのか、本当は家族のなかで身近な人と終活と言いますか、先ほど、堺圏域でお一人様の身の処し方を考えましょうとか、町田第2高齢者支援センターで住民の方が10名くらい参加して、こういったフレイルや ACP のパンフレットを配っているというようにかんで、専門家の先生を呼ばれるということで、どうしたら一般的な皆が考えるようなわかりやすい表現になるかというのをどのくらい先生が編み出してくださるか、私達の共通の言葉を出してくださるか、ぜひ期待したいと考える。現場のなかでお一人様で非常に考え方の硬いとか頑固な高齢者の方で病気が進行しているのに先のことを考えない方々にとときどき会う。特に男性の後期高齢者の方でひざ詰めで終活を考えましょう、後見人つけなくていいのとか、そういう話をしても結局逃げられてしまうというか、そういうことが多い。ACP のなかにもいろいろなファクターがあると感じている。まずは専門職が住民の方にわかりやすく自分の人生をどうやって生きていこうかと考えやすいような、わかりやすいキャッチフレーズがあるといいと日頃から感じている。

【研修部会・岡根部会長】 その方のいろいろな背景や頑固に至ったいろいろなこともありながら、ここにいらっしゃる皆様がいろいろな利用者や患者さんにかかわるなかで、「実は」という話を引き出している方もたくさんいらっしゃると思う。そうしたところでもしかしたら多職種協働の良さではないか。例えば、お医者さんの前に行くとしゃきとして「元気です」としか言わない人がヘルパーさんの前ではもうちょっと話しやすくなっていたり、それぞれいろいろな良さがあるのではないか。グループワークのなかでは、専門職毎の範囲だけでなく皆さんと一緒にこういうことができるんじゃないかという連携イメージの展開なども考えてご参加いただけたらと思っている。

【齋藤議長】 市民の方に伝えやすく、どうやって伝えていくかということも含めて、12月の研修と3月の研修の連動も含めて部会で検討してほしい。

協議事項1は、全会一致で承認された。

4 その他

(1) 2023年度喀痰吸引研修について

【五十子委員】 医師会主催のことなのでご報告と今後の話をしたい。今年度も、第12回喀痰吸引研修3号研修をする。研修会場はいつもどおり医師会の会館を使わせていただく予定である。実施のスケジュールは、来年の2月17日(土)、18日(日)の2日間を予定している。土曜日に座学、座学後にテストをし、18日に実技の実習をして終了予定。受講料は無料、定員24名で今のところ計画している。いつも日曜日の実技実習のところで市内の訪問看護ステーション連絡会を通じてナースの方々に協力を得ているがなかなか集まりにくい現状があり、2月という時期も年度のぎりぎりになってしまい申し訳ない。またインフルエンザに罹ったり、いろいろなことが想定されるので、支援センターにいるナースやいろいろなところにいるナースにも協力をいただきたいと思う。よろしく願います。今年度は年1回だけの開催となる。FAX で募集する。

【五十子委員】 フレイルの件で、医師会の耳鼻科の先生方からヒアリングフレイルの話が出ている。耳が聞こえなくなって、高齢者が難聴になることで情報が入ってこなくなるので、なおさらフレイルになり認知症が進んだり、いろいろなことがある。こういうことがあることを知っていただきたいと町田市医師会の耳鼻科医会で講演会をやる予定している。ドクター向けということだけではなく講演会なので参加していただきたい。10月24日(火)19時30分から行われる。

(2) 昭和上條医療賞副賞の使途について

【高齢者支援課 斉藤係長】 昭和上條医療賞の賞金の使途について、T シャツやステッカーなど様々な意見をいただいた。この意見をいただいたものに対しても様々な意見をいただいた。そうしたご意見もあって、なかなか決定に至らないということで、今まで皆様からいただいた意見を参考

に町プロでのさらなる連携強化につながるもので、皆様に配れるものという方向性で、特段、これ以上の意見がなければ会長に一任いただいて、皆様の意見を踏まえて会長と事務局で調整させていただきたい。

(3) 次回の協議会の開催日程

2024年2月15日(木)19:00-21:00とすることを確認し調整することとした。

5 閉会挨拶

【齋藤副会長】 お疲れ様です。町プロ10年たちました。11月から11年目となり、ますます町プロが発展することを考えていかななくてはいけないと思っている。今回、人生会議ということで最後の終末をどう考えるかということで、個人的にも考えていて、町田市の高齢総合計画第9期の委員をやっているが、町田市でも考えてくれないかと提案させていただいた。委員のなかでも慎重にやらなければいけない、難しいねというところで委員の方では終わった。私たちが人生会議、意思決定支援というところをこれから学んでいかなければならないと思っている。私達の知識が高くない限りは広まっていかないのではないのかというところでは、継続して皆さんと勉強していくべきことかと思うので、これからもよろしくお願ひします。本日はありがとうございました。

以上の議案審議、協議を行い、2023年度第2回の協議会を閉会した。

以 上